



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：中国との関係

(4日付ガルフ・タイムズ紙)

4日付カタール英字紙ガルフ・タイムズは、この度離任した Yue Xiaoyong 駐カタール中国大使の発言について報じている。

1. 3年3カ月ドーハに在勤したが、中国とカタール両国は、政治、経済、文化の各面において良好なパートナー関係にある。在カタール中国大使館は1988年に開設されたが、両国間関係はしばらく mission level の域にとどまっていた。しかし、2008年のハマド・ビン・ジャーシム首相兼外相の訪中は、エネルギー関係におけるより幅広い両国間協力へと道を開き、その2カ月後の習近平第二国家副主席（Deputy Vice-President）のカタール訪問と共に、自分の任期中のハイライトとなった。
2. 中国とカタールは、幅広いアラブおよび国際社会の課題とともに取り組んでいる。カタールは、中国・アラブ協力フォーラムに対する主要な貢献国である。カタールは中国政策の支持者であり、中国の国際的役割を評価している。同様に、中国も、カタールのマルチおよび国際機関での役割を評価している。
3. 2007年には、二国間貿易量は10億米ドルだったが、2010年現在は40億米ドルへと増加した。Huawei、Sino-Hydroなどを含む合計30の中国企業が、カタールにおいて活動中で、これらの企業が獲得した諸契約の総額は30億米ドル以上である。この他、金融分野での協力も成長し、中国の主要銀行であるICPCは中国農業銀行とともにカタール投資庁の公募に参加した。
4. 両国は文化交流のための協力プログラムに署名しており、2010年ドーハ・アラブ文化首都年を含むカタールの文化諸行事に参加しており、今年末までに中国人芸術家によるさらなる文化行事を予定している。教育面では、中国側は教育都市などと会談を持っている。なお、カタール在留中国人は現在約6000人であるが、この数は外国での就労を希望する中国国民の増加に伴い今後上昇する予定である。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799